

2019 TOEIC® セミナー 報告書

学生の将来を後押しする
大学の取り組み

～ 社会のニーズから考えるTOEIC® Programの活用 ～

2019年8月2日(金) ベルサール半蔵門

学生の将来を後押しする 大学の取り組み

～社会のニーズから考えるTOEIC® Programの活用～

2019年 8月2日(金) ベルサール半蔵門

事例発表 ① 玉川大学 1

玉川大学観光学部におけるTOEIC® L&R 留学条件500点 卒業要件700点の達成に向けた取り組みとその成果

観光学部長 香取 幸一 氏
観光学部 教授 青木 敦男 氏

事例発表 ② 芝浦工業大学 9

芝浦工業大学における グローバルエンジニア育成の取り組み

工学部電気工学科 教授 赤津 観 氏
教育イノベーション推進センター 准教授 吉久保 肇子 氏

事例発表 ③ 東京外国語大学 17

TUFS Recordとディプロマ・サプリメントにおける CEFR-Jに準拠した言語力可視化の取り組み

大学院総合国際学研究院 教授、英語学習支援センター長 吉富 朝子 氏

主催：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

後援：米国大使館



おかげさまで TOEIC® Program は、40周年を迎えることができました。
これからも TOEIC® Program は英語コミュニケーション能力を公平公正に
評価する世界共通の基準として、進化し続けます。

玉川大学観光学部における TOEIC® L&R 留学条件500点、 卒業要件700点の達成に向けた 取り組みとその成果



香取 幸一 氏



青木 敦男 氏

玉川大学観光学部における TOEIC® L&Rの活用

玉川大学 観光学部長

香取 幸一 氏

■ 玉川大学観光学部が目指す人材

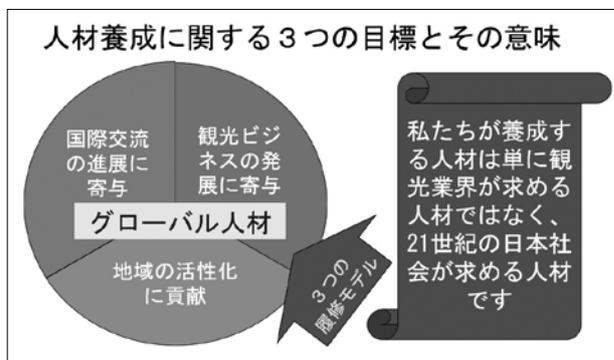
本日は、玉川大学観光学部が目指す人材育成との関連でTOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC® L&R)と留学条件、卒業要件を中心にお話しさせていただきます。

玉川大学は、2013年度に8番目の学部として観光学部を開設いたしました。ちょうど観光立国推進閣僚会議が開催された年ですが、他大学の観光学部と比べますと、比較的新しい学部になります。そのため、本学の観光学部では、「グローバル時代における観光の振興に広く貢献できる人材の育成」を目的として、具体的には観光に関する的確な理解とともに、高度な英語力、異文化理解力、さらに今後の社会をにらんだ情報力といったものもきちんと身につけた人材を輩出するように取り組んでおり、その中でTOEIC L&Rを利用しております。

グローバル人材の育成については、第一に我が国の観光ビジネスが国際標準からするとまだまだ遅れている現実、また現在の日本社会では人口減少により地域の力が衰退してきていますが、それを踏まえて多くの地域では外国人旅行者の誘致により地域の活性化に取

り組んでいる状況、さらに大交流時代の到来に伴う国際交流のさらなる進展が求められている現状から、喫緊の課題であると考えました。そして、そうした人材は間違いなく21世紀の日本が求める人材であり、そうした人材を育てるために、3つを意識した履修モデルを策定しました(資料1)。

(資料1)



■ 3つのポリシー、卒業要件と英語力 及び TOEIC® L&R

それでは、3つのポリシーと卒業要件における英語力、TOEIC L&Rがどのように関わっているのかについてお話しさせていただきます(資料2、3)。

まずアドミッション・ポリシーですが、基本的に入学時に英検準2級程度以上、またはTOEIC L&R 400点以上に相当する英語力を有していることを明確に求めています。実際にオープンキャンパスなどで学生や保

(資料 2)

観光学部の3Pと卒業要件とTOEIC® L&R

アドミッション・ポリシー 入学者受入方針	カリキュラム・ポリシー 教育課程編成・実施の方針
⑤入学時に実用英語技能検定準2級程度以上、またはTOEIC® L&R400点以上に相当するレベルの英語運用力を有する人。 【技能・表現】	②留学出発前の第1 Semesterから第3 Semesterまでは、国際共通語である英語力の伸長 (TOEIC® L&R500点) を図る… ③第4 Semester及び第5 Semesterでは、「観光学部留学プログラム」に参加し、高度な英語力への伸長を図る…

(資料 3)

観光学部の3Pと卒業要件とTOEIC® L&R

ディプロマ・ポリシー 卒業認定・学位授与の方針	卒業要件
⑤ビジネスの現場での確かなコミュニケーションをとることが可能となる高度な英語運用力を修得している。 【技能・表現】	(10) …「TOEIC® Listening & Reading Test」の公開テストまたは学内実施のIPテストで700点以上のスコアを取得していること

保護者の方とお話しすると、英語レベルに対する不安をお持ちの方がいらっしゃいます。そうした場合には、学生の英語力の伸長などを紹介する「玉川大学観光学部のグローバル人材育成」というパンフレットを使いながら、入学後のサポート体制や4年間の英語力の伸長実績などを説明して安心いただいております。

カリキュラム・ポリシーでは、2年生秋 Semesterから3年生春 Semesterまでの1年間の留学で高度な英語力への伸長を図ること、及び留学出発前の2年生春 Semesterまでの間に国際共通語である英語力の伸長を図ることに力点を置くカリキュラムとすることが明記されています。そのため、1年生修了時点で TOEIC L&R スコアが500点に達していることが2年生秋 Semesterからの留学のための条件となっています。この500点についても入学後における留学説明会で「TOEIC L&R 500点は大丈夫でしょうか」とよく質問されます。これについても、私どもとしてはパンフレットを使いながら実際にクリアしている学生が数多くいることを説明させていただくと同時に、1年間の留

学には通常の学費に加えて生活費も含め200万円以上かかりますので、遊学ではなく、本当の意味で成果の上がる留学にするために留学前に TOEIC L&R 500点以上のスコアを取得できる英語力を身につけることが重要だと理解いただいています。

そして、ディプロマ・ポリシーには、ビジネスの現場での確かなコミュニケーションを取ることが可能な高度な英語運用能力を修得していることが明記され、それを踏まえて卒業要件では TOEIC L&R 700点以上のスコアの取得を求めています。

卒業要件に TOEIC L&R 700点を用いていることについて、本年度のはじめに保護者である父母会の役員の方々とお話しする機会がありました。その際に「うちの子供は TOEIC L&R 700点をクリアしたら、大学に入学してからそれまでずっと一生懸命勉強していたのに急にアルバイトに精を出すようになってしまった。そうした点からは700点よりもっと高くしてもよいと思う」という意見をいただきました。

これは学部開設当時に学長から寄せられた「観光学部はぜひ優秀な学生を伸ばす学部にしてほしい。学生のことを慮ってできない学生を救済する学部ではなく、トップランナーを育て、そしてその仲間であるほかの学生がトップランナーを目標にして、しっかり成長できる学部にしてほしい」との期待に応える学部になっているばかりでなく、保護者の言葉は、トップランナーのレベルをもう一段上げてよいのではないかと提案とも考えられます。ただ、学部としては卒業要件としてどのあたりが妥当なのかについてまだ明確に見えていないわけではありませぬので、これから現状を見極めながら検討していきたいと思ひます。

■ 21世紀の社会が必要とする学士力

先ほども少しお話しさせていただきましたが、本学部は、単に観光学を深く学ぶという学部ではなく、観光という学びの場を通して21世紀の社会が必要とする人材、学士と評価するのにふさわしい人材を輩出する

学部でありたいと考えています。つまり、情報収集力や分析力、異文化交流力や理解力、高度な英語運用力、こういったものを観光力以外にも学士力として身につけている人材を養成したいということです。これは、平成17年の中教審答申「我が国の高等教育の将来像」の中に盛り込まれている「21世紀型市民」を意識したものです。また「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」の中でも同じく「21世紀型市民」という文言が使われていることを考え合わせますと、今後の高等教育において、この言葉は間違いなく強く意識されるのではないかと考えています。そういった意味では、私どもの学部としては高度な英語運用力を TOEIC L&R 700点としておりますが、今後同様な動きが大きく広がっていくのではないかと考えています。

■ 玉川大学が重視するELF

ここからは、玉川大学全体の英語教育について、簡単にお話しさせていただきます。

玉川大学の英語教育に関しては、ELFセンターという組織が全学共通の英語教育を実施しています。ELFはEnglish as a Lingua Francaの略称で、「共通の母語を持たない人同士のコミュニケーションに使われる英語」という意味です。あくまでもコミュニケーションツールとしての英語力の修得に主眼を置いているのです。そのため、成績評価についてはその2割が各学期末に実施される TOEIC L&R 団体特別受験制度 (IP: Institutional Program、以下IPテスト) のスコアによって評価されています。

玉川大学の英語教育では様々な場面で TOEIC L&R を活用していますが、卒業要件に TOEIC L&R 700点を掲げているのは玉川大学全8学部の中で観光学部1学部のみです。一方、1年間の留学プログラムについては、文学部英語教育学科も導入しています。また、1年には達しませんが、農学部にも留学プログラムがあります。ただし、1年間の留学と TOEIC L&R 700点の取得を卒業要件に掲げている観光学部生が

TOEIC L&R スコアは他学部生に比べて順調に伸ばしています。そうするとやはり、観光学部としての英語教育の説明が必要となってくると思います。

■ 観光学部における英語教育

観光学部における英語教育を、留学前、留学中、留学後に分けて示したものが資料4です。

(資料4)

観光学部の英語教育 I	
* 留学前 ;	大学共通 ELF+学部英語 CE I, II & III Intensive English Training A, B & C
* 留学 ;	1年間の留学 (ELICOS, Bachelor等)
* 留学後 ;	学部英語 College Reading & Writing I, II&III English Communication Strategies
注1)	学部英語については、College Reading & Writing III以外は必修
注2)	English Communication Strategiesの単位の取得については、授業の評価点に加えて TOEIC® L&Rで700点以上のスコアが必要

留学前は、ELFという全学共通の英語教育と College English I・II・IIIという学部英語を使いながら、英語シャワープログラムと呼ばれる毎日英語学習ができる環境を整え、留学に向けて英語力強化に一生懸命取り組んでもらいます。そして留学中は、留学先の大学、現在はオーストラリアのメルボルンにある3大学と協定を結んでいますが、ELICOSという大学付属の進学のための英語教育学校から Bachelorまで、それぞれの学生の英語レベルに応じた様々な学びの場が提供されています。ポイントは、留学後です。留学前で身につけてきた英語力を維持、さらには充実・強化させたいということで、帰国後の英語教育を充実させるべく4つの科目を設けています。このうち、College Reading & Writing III以外は全て必修となっており、学部生は4年生の春 Semesterまで英語を学修しなければなりません。

さらに、最近、文部科学省から実務型教員を積極的に活用するという話があります。私どもも航空・

旅行・宿泊の3分野で実務型教員を擁しています。これらの教員が担当する航空事業論、旅行事業論、宿泊事業論といった専門科目では、週2回の授業のうち1回は日本語で、もう1回は英語でというデュアル言語で学ぶ機会を学生に提供し、英語で自分の関心のある業界のことを学修できるようにしています。

お手元に配布したパンフレットは留学から帰国後半年間、つまり3年生修了時までのTOEIC L&R スコアに関するものですが、留学中にしっかり学んでくれば800点以上のスコアの取得も可能なのだということを14人の学生が証明しています。このパンフレットは、受験生やその保護者が来場されるオープンキャンパスで配布しているほか、「観光学部にはこういった人材がいます」ということを大学のキャリアセンターと連携して企業1500社にも送付し、PRしています。

■ 入学生の意識から見る観光学部の魅力

本学部の入学理由に関するアンケートを通して、7期生となる今年の入学生と、2016年度に入学した4期生の理解と意識を比較してみました(資料5)。

入学理由を尋ねたところ、いずれも「1年間の海外留学が必須である」ことを強く意識して入ってくる学生が非常に多く、本年度の入学生では約7割に上ります。続いて、「将来、観光関係の仕事を目指している」「将来、英語を使う仕事に就きたい」となっています。また、上位ベスト10のうち1位、3位、4位、6位及び9位にランクインした項目をみると、観光学部に入学してくる学生が英語を学ぶことに非常に魅力を感じていること、さらにその傾向は7期生のほうが4期生よりもより高くなっていることが分かります。さらに9位をみると「卒業要件のTOEIC L&R 700点に魅力を感じた」という学生も一定数いるという状況が分かります。

TOEIC L&R スコアを卒業要件の1つとすることについては、「本当に大丈夫か」「きちんと卒業生を出せるのか」「受験生は集まるのか」と学部設立当時の教員は不安でいっぱいでしたが、杞憂に終わり、今ではこうして皆さんに報告できるようになっています。

実際に、受験生の状況などを分析してみると、最初の3年間、学部開設の初年度こそ多くの受験生が集まりましたが、2年目、3年目と受験者数は減少しました。ところが、4年目には受験者数が増加に転じ、それに伴い受験生、入学生の質が上がってきました。その

(資料5)

	全体	1年間の海外留学が必須である	将来、観光関係の仕事を目指している	将来、英語を使う仕事に就きたい	英語力の向上を図ることができそうである	大学での学びの対象として観光に興味を持った	海外でのインターンシップを経験したい	観光の職業教育を受けられそうと思った	観光がいま注目を集めている	卒業要件のTOEIC700に魅力を感じた	観光学部の就職実績が良い
第7期 2019年	139 100.0%	96 69.1%	90 64.7%	89 64.0%	82 59.0%	58 41.7%	56 40.3%	24 17.3%	23 16.5%	18 12.9%	15 10.8%
第4期 2016年	112 100.0%	52 46.4%	52 46.4%	37 33.0%	48 42.9%	43 38.4%	26 23.2%	14 12.5%	15 13.4%	6 5.4%	2 1.8%

結果、1年生で卒業要件 TOEIC L&R 700点をクリアする学生が誕生しています。これは「1年間の留学があって、TOEIC L&R も 700点を取って4年間で卒業できる」「TOEIC L&R 700点の英語力があると就職で有利になる」という評判が相当程度浸透してきた結果だと考えています。

次に試験形態別にみてみますと、やはりトップは「1年間の海外留学が必須である」が推薦系 70.1%、試験系 63.6%となりました。しかし、注目していただきたいのはそこではなく、推薦系の2位が「将来、観光関係の仕事を目指している」で 67.5%であるのに対し、試験系は「将来、英語を使う仕事に就きたい」「英語力の向上が図れそうである」が 54.5%で同率2位となったところです。ここがポイントで、他大学観光学部との差別化が図れていると私たちは評価しています。単純に観光を学ぶため、観光業界に就職するために有利だということではなく、英語力の充実・強化を意識した学生が本学部によく入学しているということです。

次に就職状況ですが、通常、観光学部・学科の学生が観光業界に就職する割合はだいたい2割前後といわれています。ところが、本学の観光学部の学生は約4～5割が観光業界に就職しています。これは、観光業界でも玉川大学観光学部生の英語力が高く評価されていることの表れだと考えています。

本日の新聞にも来年8月には東京にあるホテルの稼働率が100%を超えるという記事がありました。その要因には当然、外国人旅行者の増加が挙げられます。そうすると、観光業界のグローバル人材に対するニーズは少なくとも来年のオリンピック・パラリンピック東京大会、さらに2025年の大阪万博までは続くだろうと考えられます。こうした中で、本学部生に対する期待はますます高まるものと信じています。

観光学部としては、現行の取り組みについて学生や保護者だけでなく、企業からも一定の評価が得られていると考えています。今後はさらに学生の就職の質を高めるために就職活動支援の一環として、TOEIC L&R 700点のスコアや1年間の海外留学の意義をしっかりと理解し、就職活動でどうアピールするのかについ

て指導する機会を今年の秋に提供できるよう準備を進めているところです。

それでは、次に英語担当教員である青木先生による留学条件や卒業条件である TOEIC L&R スコアの達成のために本学部が実施している支援活動などに関する説明に移らせていただきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

観光学部在学生の TOEIC® L&Rスコアの推移と評価

観光学部 教授

青木 敦男 氏

■ 玉川大学におけるIPテストの状況

観光学部教授の青木です。私からは、取り組みの成果を中心にお話しさせていただきます。

まず、観光学部では現在、TOEIC L&R IP テストを年9回実施していますが、これは1期生から導入していたわけではありません。私は2013年の観光学部開設当初から1年生を担当していますが、2年目、2期生の担任をしていたときに一般入試で入学してきた学生たちがなかなかTOEIC L&R 500点が取れずに苦労しました。「これは困った、なんとかしなくては」ということで当時の初代学部長に相談し、「試験回数を増やすことで、学生たちがクリアできる機会を増やしたい」と伝えました。それが、IP テストを導入することになったきっかけです。そして、その翌年には、1期生が留学を終えて帰ってきました。卒業要件がTOEIC L&R 700点となっていますので、「卒業要件をクリアするための機会をきちんと設けなくてはいけない」ということで、本格的にIP テストを実施することになりました。

本学には生協がないため、IP テストは観光学部の英語教員が主体となって運営・実施しています。もちろん、これは受益者負担です。本学はIIBCの賛助会員になっていますので、学生に1回の受験料3,075円を学部の口座に入金させ、その入金データを基に受験者名簿や座席表を作成し、試験を行っています。試験結果の発表方法もいろいろな方法があります。学内のネットワークシステム「Blackboard @ tamagawa」を通じて発表することもありますし、私から直接学生に電話を入れることもあります。あるいは、日時と場所を指定してそこに結果を聞きに来させることもあります。

なお、判定の対象となるTOEIC L&Rの試験についてですが、観光学部では公開試験と学内で実施したIPテスト、これらの試験でのスコアのみ有効としていま

す(資料6)。IPテストは、観光学部主催の他、ELFセンターも授業の一環として実施しています。春1回、秋1回、場合によってはサマーセッション、ウインターセッションの年4回あります。加えて、継続学習センターが主催するものが年2回あります。

(資料6)

留学判定・卒業判定の対象となるTOEIC® L&R 大学入学後に受験した次の試験とする		
区分	実施者	スコアレポート 提出
IPテスト	ELFの一環	卒業要件(700)を クリアした場合は 要提出
	観光学部主催 継続学習センター主催	必要
公開テスト	---	必要

IP=Institutional Program

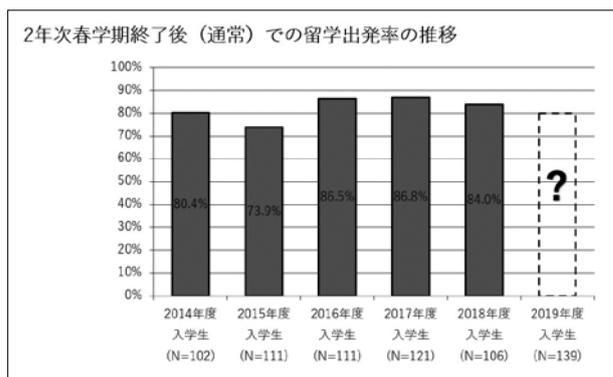
担任教員にスコアレポートの原本を提出すること

■ 観光学部の留学・卒業状況

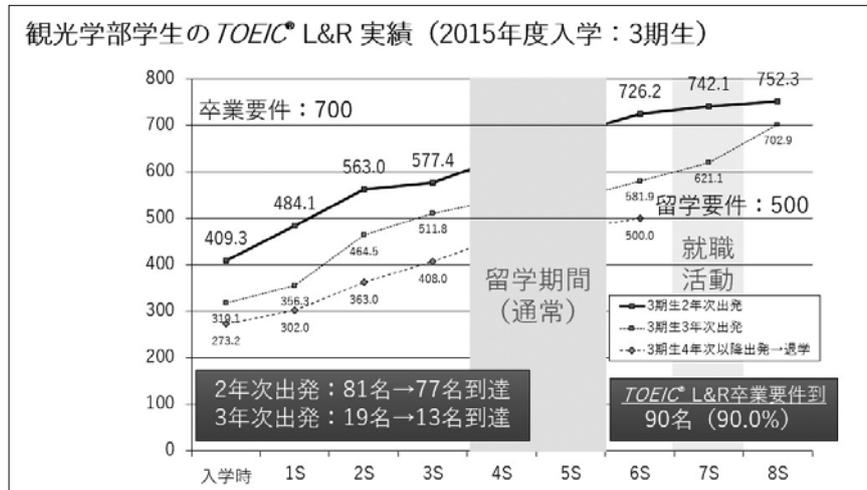
2期生から本年度7期生までの、2年生春 Semester 修了時での留学出発率の推移を示したものが(資料7)です。2013年度の1期生は、例外的に全員留学させました。その理由は、卒業要件として1年間の留学と、留学するためにはTOEIC L&R 500点以上を取らなくてはならないということを周知できなかったためです。2期生以降は、2015年度を除きだいたい8割ちょっとの学生が予定どおり、ストレート留学をしています。

先ほど、香取学部長からの話にもありましたが、観

(資料7)



(資料 8)



光学部のアドミッション・ポリシーで求めているレベルは英検準2級または TOEIC L&R 400点以上ですが、1～7期生までの入学時に受験してもらった TOEIC Bridge® Test の換算スコアを見ますと、だいたい平均は 350～400点となっています。

4年間の具体的なスコアの推移を見ていきたいと思えます。実は学生たちは、それぞれのセメスターで複数回、公開試験を含めて TOEIC L&R を受験しています。グラフの数値は、それぞれの学生の最高スコアの平均を示したものです。全ての年度において、セメスターを追うごとにスコアが伸びています。しかも、1期生よりも2期生、2期生よりも3期生のほうがスコアが高くなっています。

観光学部では1年生の12月の公開試験、1月の観光学部主催のIPテストまでに TOEIC L&R スコアが500点以上ないと留学が先延ばしになります。そのため、中には3年生以降に出発する学生もいます。しかし、3年生出発のみの学生のスコアの推移を見ても、スコアは確実に伸びており、4年間で卒業する学生が多くいます。当初我々は、1年遅れの学生は卒業できないのではないかと懸念していましたが、その予想はいい意味で裏切られました。たとえ1年留学が遅れたとしても、一生懸命勉強すればなんとかなるという例だと思えます。

今年3月に卒業した2015年度入学生のスコアの推

移を示したものが(資料8)です。2年生出発の学生のうち77人、1年遅れで出発した学生のうち13人の計90人が4年間で無事卒業していきました。4年間で卒業する割合も、年を経るごとに年々上昇しています。

■ 企業や保護者、学生からの高い評価

最後に、企業や学生からの評価についてお話しさせていただきます(資料9)。

(資料 9)

観光学部生の就職力	
就職活動で評価される観光学部生の力	
評価される玉川大学観光学部プログラム	期待される観光学部生
①卒業要件 1年間の海外留学 TOEIC L&Rスコア700点以上	ANA HD 伊東社長(当時) 会社が絶対手放さない人の条件とは「TOEIC 700点以上、世界の常識人」【出典：PRESIDENT 2014年2月17日号】
②留学プログラム 留学先大学で現地学生及び他国からの留学生との机を並べた学修	大学が誇る1年間の海外留学中の苦役が学生を大きく成長させている。 就職会社 1年間の留学を通じてのTOEIC L&R700点は、本当に使える実能力として評価できる。

企業からは、卒業要件に1年間の留学と TOEIC L&R 700点以上を定めていることそのものを高く評価していただいています。また、外国の方を前にすると

なかなか意思の疎通が図れない、壁ができてしまうということがありますが、本学部の学生は1年間の異文化体験、異文化交流によりその壁がないということで、即戦力としても評価していただいています。

観光学部は2013年の4月にスタートしましたが、約1年後のある雑誌のインタビューで、当時のANAホールディングスの伊東社長が、会社が絶対手放さない人の条件の1つとしてTOEIC L&R 700点以上を挙げていました。この言葉からも、本学部のTOEIC L&R 700点以上というのは、決して間違っていないということがいえるかと思えます。学生の就職先でもある大手ホテルの方からは「1年間の海外留学中の苦労が学生を大きく成長させている」、鉄道会社の方からも「1年間の留学を通じてのTOEIC L&R 700点は、本当に使える英語力として評価できる」との声をいただいています。

2期生で旅行業に就職した学生は、入学時のTOEIC Bridge Testによる換算スコア365点から最高735点までTOEIC L&R スコアを伸ばしました。就職活動時には「700点あることより、そこまでどう努力したか、どのような道筋を立てて到達したかなどを尋ねられましたし、現在の業務については英語ができる人材として、仕事の幅が増えていることを実感しています。例えば、海外添乗に1年目で行かせていただき、現在は海外スキルアップ研修に参加させていただいています。海外添乗時はお客様に安心を提供できます。そこからつながる仕事もあるので、英語を頑張った良かったと感じています」と話していました。

観光学部の学生は、留学先のオーストラリアでインターンシップにも参加しています。昨年と今年は、毎年5月にシドニーとメルボルンで開催される「スノートラベルエキスポ」で、日本の蔵王温泉スキー場の広報活動を行いました。この活動が評価され、今年は蔵王温泉観光協会から感謝状もいただきました。

このように、本学部の学生は学内だけではなく、山形、日本のために一生懸命頑張っているということをご紹介させていただき、プレゼンを終了させていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

芝浦工業大学における グローバルエンジニア育成の 取り組み



赤津 観 氏



吉久保 肇子 氏

電気工学科における グローバル人材育成について

芝浦工業大学 工学部電気工学科 教授

赤津 観 氏

■ 電気工学科が考えるグローバル人材とは

芝浦工業大学は2014年にスーパーグローバル大学創成支援事業タイプB(以下、SGU)に採択され、全学をあげてグローバル人材の育成に取り組んでいます。各学科にグローバル担当教員が配置され、私は電気工学科のグローバル担当教員として様々な取り組みを行ってきました。そこで、私からはまず、電気工学科における取り組みをご紹介します。

電気工学科では、4月初頭に新入生を対象にグローバル・ビジョン・ワークショップをやっています。そこでまず、グローバルエンジニアを取り巻く環境について説明しています。日本はもはや日本単独では成立しませんから、今後ますます海外での仕事が増えていくこととともに、工学部出身のエンジニアが使う英語はあくまでも、いわゆる「Poor English」だということを強調しています。大事なのは、いかにして自分の技術や言いたいことを説明するか、いかに相手の言いたいことを把握するかですから、流暢な英語を話す必要は全くと説明しています。

また、世界各地に点在するトヨタの海外生産拠点を例に挙げながら、目指すグローバル人材のイメージや

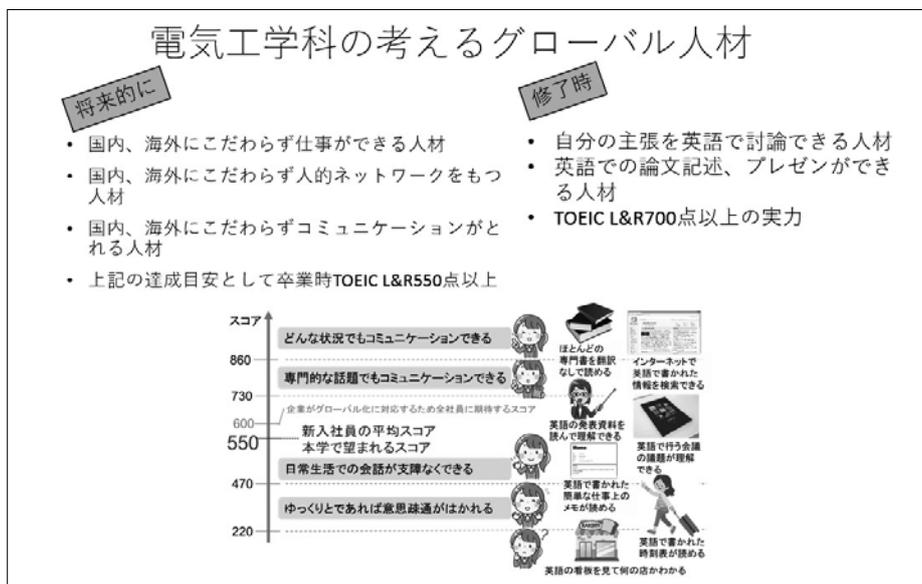
TOEIC® Tests のスコアが企業の採用や昇進・昇格の場面でどのように使われているかを紹介しています。私のゼミの卒業生も国内の自動車メーカーに就職しましたが、その会社では学校推薦の条件として「TOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC® L&R) 650点以上」ということが明記されていました。その点数を取っていないと推薦すら受けられないということですので、学部でも「TOEIC 大事だよね」「英語を勉強しましょう」ということを学生の頭に叩き込み、4年間勉強してもらっています。

ただ、学部と修士では求められる英語力が変わってきますので、例えば私の研究室では、特に修士の学生には国際会議に出て発表するということを明確にしています。これは正式な修了要件ではなく、あくまで非公式ではありますが、過去10年間に修了した学生約50～60人は、全員が国際会議に参加し英語で発表しました。

電気工学科の考えるグローバル人材についてまとめますと、まず学部生に関しては、将来的に国内外問わず仕事ができること、そして人的ネットワーク、海外の友達を今のうちからたくさん作ってくださいと話しています。さらに、英語でなくてもよいのですが、国内外問わずコミュニケーションが取れることを挙げています。そして、この3つができる目安として、卒業時に TOEIC L&R 550点以上取れるようにしなさいと言っています。

一方、修士は自分の主張を英語で討論できる、英語での論文記述やプレゼンができる、この2つができる目安として TOEIC L&R 700点以上を取りましよう

(資料 1)



言っております(資料1)。

■ 学科独自の全員海外プログラム

学部4年間の間に TOEIC L&R 550点以上取れるようになることを目標として、電気工学科でどのようなことをやっているかについて簡単にまとめたものが(資料2)になります。

(資料 2)

グローバル人材育成のための諸活動 (電気工学科)
1年生：入学時にグローバルビジョンWS (全学)
全学年：4月オリエンテーションにてグローバル人材の意識向上
2年生：全員海外プログラム実施
3年生：主にg-PBL参加とTOEIC L&R対策
4年生：卒業研究英語ポスター中間発表
TOEIC L&R550点以上で大学院進学奨学金
M1, M2: ひたすら研究して成果を海外発表
英語授業にて論文輪講と英語プレゼン

電気工学科独自の取り組みとして、2年生の「全員海外プログラム」というものがあります。全員といっても

完全な強制ではなく、2年生の間に海外のどこかに行きましょうという緩やかなものです。最短で1週間、長い場合は約半年間といった様々なプログラムを学科または学内で提供しています。(資料3)が電気工学科で実施している Project Based Learning (以下、PBL) プログラムの一覧です。当初、全員を海外に派遣する際、学科内には様々な議論がありました。修学旅行のように全員を同じ場所に連れて行って勉強させて帰ってくるという案もあったのですが、各教員にはそれぞれ得意としている国や大学の交流関係がありましたので、最終的にはそちらに少人数の学生を連れて行って独自のプログラムをやるほうが効率よく、コストもかからないだろうということになりました。1つのプログラムの参加人数を5~10人と比較的少人数にしてなるべく数を多く設置することで、学生に対して参加しやすく、選択肢を増やせるよう工夫しました。期間はだいたい2週間くらいで、現地で現地の学生と一緒にプログラムを解いたり、モノを作ったりしています。

実施に当たり、2年生のはじめに「あなたはどこに行きたいですか」というアンケートを取るのですが、そうすると「絶対行きたくない」と不参加を表明する学生がいます。その理由もいろいろなのですが、「私はまだ英語が話せません。英語が話せない状態で海外に行っても

(資料 3)

電気工学に関する PBL プログラム EP							
	場所	名前	内容	期間	金額	人数(人)	認定授業
EP-1	韓国釜山国立大学	韓国大学ロボット研究室体験プログラム	大学院生の研究に参加して、ロボット研究室を体験する	9/3～9/14で調整中	約10万円	5	国際インターンシップ
EP-2	インドネシア ITB	インドネシア電気工学研修インターンシップ	電気工学研修 バンドン工科大学での合同実習	8/31～9/11で調整中	約11万円	10	国際インターンシップ
EP-3	中国・深圳	ハルビン工科大学深圳校インターンシップ	ロボット研究室にて、大学院生の研究を経験する。現地のドローン企業、ロボット企業、香港大学の見学を行う	8/21～9/1で調整中	約15万円	5	国際インターンシップ
EP-4	ベトナム HUST	国際電気工学インターンシップ B in HUST	HUSTの学生と一緒に DC/DC コンバータを作成する	2月または8月10日間	約15万円	10	国際電気工学インターンシップB
EP-5	ベトナム HUST	国際電気工学インターンシップ A	HUSTの学生と一緒にライントレースロボットを作成する	2月下旬から3月初旬(2018)	約15万円	10	国際電気工学インターンシップA
EP-6	台湾 NTUST	国際電気工学インターンシップ B in NTUST	台湾科技大の学生の指導のもとに DC/DC コンバータを作成する	3月初旬(2018)10日間	約15万円	10	国際電気工学インターンシップB
海外語学研修 OE							
	場所	名前	内容	期間	金額	人数(人)	認定授業
OE-1	ベトナム HUST	電気工学英語研修 in HUST	Electrical Engineering English 本学電気工学科向け特別カスタマイズプログラム、ベトナム人学生も参加	9/4(月)～9/17(日)(14日間)	約17万円	20	海外語学演習
OE-2	KL マレーシア	電気工学英語研修 in マレーシア	General Engineering English 一般向けプログラムへ参加、プレイスメントテストによりレベル別授業、他留学生も参加、宿泊は現地ドミトリー	7/29(土)～8/30(水)(33日間)	約27万円	20	海外語学演習

全員海外プログラム

全員参加しやすいようになるべく多くのプログラムを学科独自で開催
・少人数多プログラム

役に立たないと思うので行きません」という意見が毎年必ずあります。そういった学生には、「『場数』を踏むのが大事、とにかく『場数』だ」と口を酸っぱくして言っています。実際にこの話には効果がありまして、海外に行ってくると、やはり違うんですね。もちろん、すぐべらべらになって帰ってくるということは絶対にありませんが、目付きが変わり、英語に対する意識や学習意欲も大きく向上しています。

■ 3年生から TOEIC® L&Rの指導を本格化

2年生の海外派遣に参加した学生の多くが、自分は英語が話せないということを実感して帰ってきます。そうすると、英語の学習意欲も湧いてきますので、その時に TOEIC L&R の勉強をさせています。同時に、なぜ TOEIC L&R なのかということも丁寧に説明します。本学の学生は就職に対する意識が非常に高いため、やはり、多くの企業が採用時に TOEIC L&R スコアを参考にしているという点が非常に響くようです。

ただ、「頑張りなさい」と言うだけでは、学生は頑張りません。ですから、なんとか我々のほうから様々な学習機会を提供しています。

1つは無料の TOEIC 対策講座です。吉久保先生の部署が担当してくださっていますが、学外で受講すれば何十万円もかかる講座を無料で実施しています。他に、プレゼン英語修得講座もあり、こちらは少人数でプレゼン能力を高めることを目的としてやっています。国際会議での発表と研究活動に必要な英語力の向上を目指すということで、研究室の中に講師を呼んで行っているのですが、こちらでも学生からの評判はよく、「自分が好きなトピックを学ぶことができた」「良い刺激になって英語へのアレルギーがなくなった」「日常でも研究室で英語を使う機会を作ることが今後の課題」などポジティブな意見が多くあります。

■ TOEIC® S&W をトライアル実施

ところが、中には「TOEIC L&R ができたとしても英語力がついたとはいえないよね」「TOEIC の勉強はつまらない」という学生がいます。そこで、より実践的な英語力を試したいという学生の声を受けて、2018年度にトライアルとして電気工学科の3、4年生全員に TOEIC® Speaking & Writing Tests (以下、TOEIC® S&W) を受験させました。翌年は、TOEIC L&R 450～500点

の学生を対象を絞って実施しました。このスコアの学生に絞った理由は、今回の TOEIC S&W 受験を機に勉強にもう少し意欲を持って取り組み、さらに上のスコアを目指してもらいたいと思ったからです(資料 4)。

受験後のアンケート結果を見ると、試験の難易度は「とても難しかった」「やや難しかった」の割合が非常に高くなりました。けれども、「仕事で役立つと思うか」という問いには「とても役に立つ」「やや役に立つ」が4分の3以上を占めました。コメント欄にも、「自分に力がないことを身にしみて感じました。これをきっかけに向上していけるよう頑張ります」「あまりできなかった。でもスピーキングが一番大事だと思うのでしっかり勉強していきたい」「英語に意欲が湧く内容のテストだった」など、総じて肯定的な意見が多く、学生のエンカレッジに非常に有用であることが分かりました。

私としては、せっかくSGUに入ったのだから、ぜひその機会を十分に生かしてグローバルな学生になってもらいたいと思い、いろいろな取り組みをやってきました。では、こうした個別の取り組みを全学的に拡大させてきた例について、吉久保先生から紹介していただきたいと思います。

(資料 4)

TOEIC® S&W IPテスト 実施

- TOEIC L&Rの点数が英語力と必ずしも結びつかないという意見 (学生)
- より実践的な英語力を試したいという意見 (学生)
- 2018年度 電気工学科3,4年生必須で受験
- 2019年度 TOEIC L&R450点-500点に絞り実施

Q.試験の難易度は

Q.仕事で役立つと思うか

**電気工学科TOEIC®Speaking&Writing
コンテスト開催のお知らせ!**

TOEIC® Speaking & Writing Tests (以下、TOEIC®S&W)とは?
TOEICには、Listening & Reading Test (以下、TOEIC®L&R)だけでなく、「話す」「書く」英語能力を測定するTOEIC®S&Wもあることを知っていますか? 受験者はマークシートではなくヘッドセットを装着し、パソコン画面の指示に従って音声や映像を聞きながら文章入力したりして解答します。社会が求める英語力を証明できる資格として近年注目を集めている資格TOEIC®L&Rに加えて海外赴任要件や昇進昇格要件として採用する企業も増えています。今回電気工学科を対象に特別に無料受験ができることになりました皆さんの今後の英語への取り組みに対して参考になると思います、4年生全員必修で実施します。

電気工学科 TOEIC®S&W コンテスト概要	
日時	4月11日(木) 10:00~11:50 (4年生)、13:40~15:30 (3年生) 集合は10分前
対象	電気工学科 3年生、4年生(全員必須です)
場所	教室棟PC教室2-6
受験料	無料 *通常3,050円(税込)
試験内容	Speaking (20分、計11問): 「音読問題」、「写真描写問題」、「応答問題」、「指示された情報に基づく問題」/ 解決策を提案する問題」、「意見を述べる問題」 Writing (40分、計8問): 「写真描写問題」、「メール作成問題」、「意見を記述する問題」 詳細は、 http://www.libc-global.org/toeic/test/sw/about/format.html を参照のこと。
参加メリット	従来のTOEIC®L&Rと異なり、TOEIC®S&W対策で英語を論理的に話したり書いたりするための型を身につけることが出来ます。
問い合わせ	電気工学科 赤津まで (特段の事情により受験できない場合は必ず連絡すること)

成績優秀者は表彰します!

3位賞品
夏学期試験、西海研NASSAアプリにご招待!!
卒業旅行券、滞在費無料!

IP: Institutional Program

グローバル人材育成のための 全学的取り組み

芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター 准教授

吉久保 肇子 氏

■ 目標値として TOEIC® L&R 550点を設定

芝浦工業大学教育イノベーション推進センターの吉久保と申します。私は、どこかの学部にも所属している教員ではなく、全学的にグローバル人材育成のための種をまき、芽を出し、花を咲かせる仕事をしています。今回は、全学的なコミュニケーション力強化策についてご紹介させていただきます。

取り組みの背景となったのは、2012年にグローバル人材育成推進事業(以下、GGJ)、さらに2014年にSGUに採択されたことです。これらの事業を進めるに当たり、本学では2つのメインターゲットを設定しました。1つはモビリティの拡大、2つ目がコミュニケーション力の強化です。1つ目のターゲットは順調に推移し、こちらは問題なく達成できるだろうというところにあります。コミュニケーション力の強化については、グローバルエンジニアとして卒業時までにCEFR B1レベル、TOEIC L&R 550点以上と目標値を設定しました。この数値の妥当性については(資料5)をご参照ください。

しかし、私が本学に来た2014年度末の学内の状況は崖っぷちで、具体的には、2年後の2016年度末の目標値の3分の1に満たない状況でした。数値もですが、

(資料 5)

グローバル人材育成のための全学的取り組み ● コミュニケーション力強化策

目標値

グローバルエンジニアとして、学部卒業時までに到達すべき英語力を、「専門分野に関連した簡潔な内容を十分に理解できる」レベルであるCEFR B1 (TOEIC L&R550) 以上と設定。

550点の妥当性：

全国の大学生のTOEIC L&R平均スコア：454点

理・工・農学系平均スコア：434点

就職内定者平均スコア：538点

参照：

TOEIC® Program DATA & ANALYSIS (DAA) 2019
(https://www.iibc-global.org/library/default/toEIC/official_data/pdf/DAA.pdf)

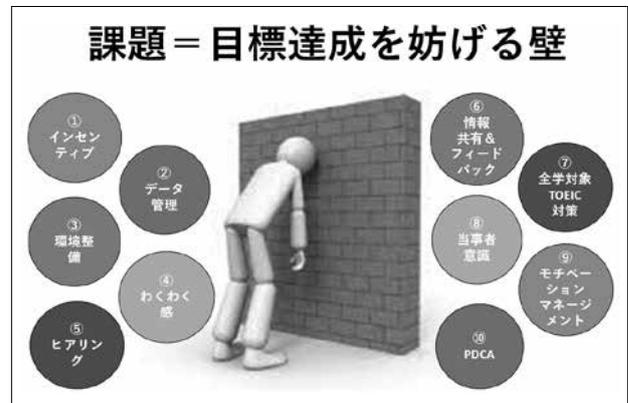
特に問題だったのは、学内の関係者全員を奮起させることを狙いとして危機感を全面的に打ち出した働きかけが、現場の先生方には責任の押しつけと誤解され、逆効果な状況を引き起こしていたことです。

■ 目標達成を妨げる10の課題

まずは現状把握ということで、他大学を取材し、グッドプラクティスをレポートにまとめました。

それから、学内の正課授業・課外授業、TOEIC L&R 団体特別受験制度 (IP: Institutional Program、以下 IP テスト) の回数や日程、学内における全ての語学力につながるであろう強化策の対象者や受講料、実施時期などを全てリストアップして、課題の抽出を行いました。そうして見えてきた課題が(資料6)です。

(資料 6)



これらの10項目が、本学はできていない、あるいはまだまだ不十分な状況であることがわかりました。

■ 具体的なコミュニケーション強化策

最初に取り組んだのは、インセンティブとして、TOEIC 表彰を提案・実施することです。これにより、全学生のデータベースの構築と改良が可能になり、データ管理によって次の対策につなげることができる

ようになりました。

環境整備に関しては、全学的に全4回、「スコアアップレッスン」というものを実施しました。対象は、英語の授業がなくなってしまう全学科の3年生としました。英語学習に対する意識づけとやる気の喚起はもちろん、アンケートを実施することで学生の弱点を把握し今後の対策の資料とすることを目的としました。

そこで見えてきたことが幾つかあります。まず、レッスンをやってよかったことは、学科別達成率を数値化できるようになったことと、学生の意識がネガティブからポジティブに変化してきたことです。また、そもそもなぜ TOEIC 受験に対して消極的なのかについても、アンケートによって明らかにすることができました。「単語力がないために問題の意味が分からず、何を聞かれているのか、何を答えればいいのか分からない」「そもそも何が分からないのか分からないので、分からないものに対して背中を向けてしまう」といった理由が特に550点未満の学生に多く見られました。

一方で、デメリットもありました(資料7)。学科ごとに実施したために、調整が大変で先生方の大きな負担になってしまったこと、正課授業外での実施のために教室の確保が難しかったこと、そして学科ごとに先生方の働きかけに差が出てしまい、結果的にそれが出席率などにも反映されてしまったことです。こういった学科ごとにカスタマイズしたかたちでの実施は、3年生だけならまだしも全学展開することは不可能である、そしてやはり、1回だけでは継続的な受験対策につながらない、ということで次年度以降は全学年を対象にかたちを変

(資料7)

2015年度前期～後期：

スコアアップレッスンのデメリット

- 学科ごとの調整が必要(学科教員の負担になる)
- 教室の確保が難しい
- 学科毎に実施方法が異なり出席率に大きな差が出た
- 全学実施は不可能
- 継続的なTOEIC L&R IPテスト受験対策に繋がらない

↓
TOEIC対策講座開催案へ

えて実施することになりました。

もう1つ、同時期に行っていたのが、ランチタイムに行う自主的な勉強会「TOEIC もくもく会」です。学年学科横断型で誰でも自由に参加できること、無料であること、ランチタイムの30分で終わるので授業より負担が少ないこと、筆記テストがないこと、などが特徴で、遅刻・早退・欠席も自由なコミュニティとして主催しました。ランチタイムに集まって、TOEIC の話をしたり、音読をして単語を覚えるといった活動ですが、そうしたコミュニティに参加しているということで、学生からは「就職活動のときのアピールになった」「そもそも参加するのが楽しい」といった声がありました。コミュニティ効果は絶大で、半年間で平均約150～200点のスコアアップにつながりました。

他にも、TOEIC L&R IPテストの年間スケジュールの情報共有や、受験機会の拡大、受験料のサポートなどを行いました。具体的には、TOEIC L&R に関する年間スケジュールなどの情報を一元化し先生方と共有することで、年間を通じた受験と対策講座などの受講への働きかけが可能になりました。受験回数や受験料については、学内で年4回 TOEIC L&R IPテストを実施するとともに、全学生に年1回無料受験の機会を設けたり、期末試験で TOEIC L&R IPテストを実施する科目は受験料無料かつ年度内の受験回数にカウントしないなど、受験しやすい環境を整えました。

■ 情報共有、フィードバックの重要性

工学部の全学科を回って、ヒアリングをしたこともコミュニケーション力の強化につながりました。このヒアリングの目的は、現場の先生方の状況を把握することと、スコアアップレッスン開催時の協力に対するお礼という意味も込めて、TOEIC L&R スコアなどの情報を共有することでした。教授会などでも取り組みに関する資料の配布などは行っていましたが、直接お話をすることが非常に重要で、特に学生の意識がどのように変化したのか、また、「もくもく会」のようになかなか先

生方の目には触れない場面での学生の頑張りなどの情報は、先生方にもとても喜ばれました。その結果、少しずつではありますが、徐々に先生方の理解や協力が得られるようになってきました。

教授会では、毎回全学部・大学院の学年・学科別の目標達成率を報告していますが、達成率は%ではなく、人数で示しています。%よりも何人増えたというように具体的に人数で示すことで成果の見える化を図りました。加えて、学年ごとのトップ3や、トップ3には入っていないけれども、昨年度と比較して10ポイント以上の伸びを示している学科も取り上げて資料を作成しています。

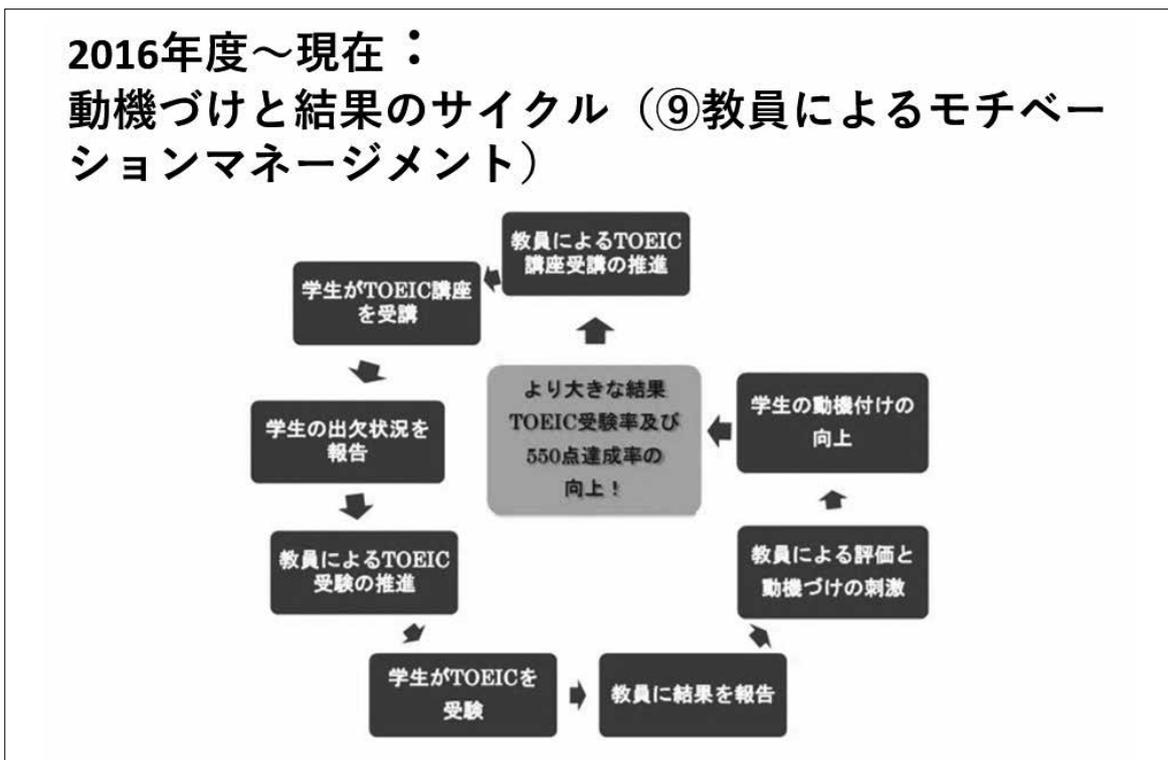
教授会やヒアリングによって様々な情報を共有することにより、直接学生にメリットがあると理解が得られた活動については先生方からの反応もよく、例えば「もくもく会」のような活動は研究室での実施に拡大していきました。研究室に行って最初の導入のところをお手伝いし、その後は院生に落とし込むというかたちで行うことで、9研究室100人以上が参加する活動へと発展しました。研究室でやることのメリットは、もちろん無料であることと、ゼミのコアタイムに実施するので学

生の集まりにもつながるということです。ゼミ生みんなに参加することでチームビルディング効果もあり、学生だけでの実施にとどまらず、一部の研究室では先生方も一緒に参加してくださいました。

現在実施している「TOEIC 対策講座」は「スコアアップレッスン」の反省を踏まえ、全学生対象に全3キャンパスでレベル別に開催しています。受講料は無料ですが、テキスト代のみ学生負担としました。開催に当たっては、赤津先生のように学科の先生方と募集案内を共有し、都度学生に受講をプッシュしていただくようお願いしています。

ここでポイントをまとめると、やはり、全体と個別のフィードバックが必要不可欠であったと感じます。先生方、学生両方がわくわくするような企画を作っていくことと、それに対する情報共有や結果のフィードバックを行うことで、先生方、学生の両方に当事者意識を持ってもらえたのかなと思います。成果の可視化ということです。その結果、(資料8)にあるように、動機づけと結果の好循環サイクルを作れるようになってきたかなと感じています。

(資料 8)



■ TOEIC® S&W、検証から全学展開へ

近年は、CEFR B1の達成者数の増加に伴い、学生の中でも、聞く・読むに加えて話す・書くのスキル向上に対するニーズが高まってきました。そこで、TOEIC S&Wのトライアルを実施しました。学生の英語力を幅広く測定するためのツールとして有効かどうかを検証するのが目的でしたが、新たな起爆剤として TOEIC L&R だけではない取り組みが必要だったこともあります。

このトライアルの結果、電気工学科では、CEFR B1目標達成率が2017年度5月の11%から、2年後の2019年度5月には43%と30ポイント以上の伸びにつながりました。

2019年度現在は、TOEIC S&Wも全学展開しています。その理由は、トライアルを実施した電気工学科の4年生がCEFR B1目標達成率において学年首位を獲得したこと、さらに、TOEIC L&RにおいてCEFR B1未達成者、つまり550点に満たない学生のうち、TOEIC S&Wを受験したところCEFR B1を取ることができた学生が約2割いたことです。このことから、学生の英語力を幅広く測定するツールとしてTOEIC S&Wが有効であると大学として判断しました。また、TOEIC S&W受験時にCEFR B1未達成の学生も当然いたのですが、これらの学生を追跡調査したところ、1年以内にTOEIC L&RにおいてCEFR B1に達するケースが、全員ではありませんがある程度見られたという成果もありました。

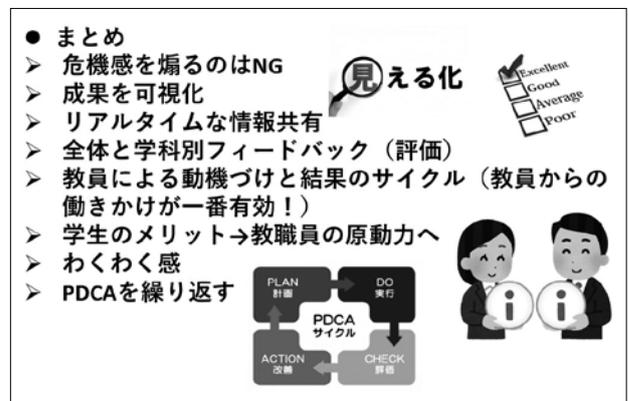
海外派遣者数も非常に伸びており、学内全体で聞く・読むだけでなく、話す・書くスキルのニーズと評価方法に対するニーズの両方が高まってきたという背景もあります。現在のCEFR B1達成者数は、最悪の状況を抜け出し、順調に増えてきています。

■ 4年間の取り組みを振り返って

4年間の取り組みを振り返りますと、危機感を煽りすぎるのは良くなかったと感じています。有効だったの

は、成果を可視化することです。特に本学は理系の大学ですので、数値データに対して先生方の反応が良いということもありました。また、リアルタイムに先生方に情報を提供する、しかも全体と学科別にフィードバックすることが重要だと実感しました。加えて、悲壮感を前面に出すのではなく、わくわく感、楽しい感じを出すこと、データの可視化も含めてPDCAサイクルを常に繰り返すことが重要だと感じています(資料9)。

(資料 9)



最後に今後の課題です。以下の2点は学内的なまとめではなく、あくまでこの4年間働きかけを行ってきた私が今後の課題として考えていることです。1つは、情報共有です。入学生やその保護者への周知を徹底すると同時に、学内の教職員との連携も不可欠だと感じています。学内には、TOEIC Testsや英語に関わらず様々なプログラムがありますので、そういった他の取り組みとの連携を強化していく必要性も感じています。2つ目の環境整備については、まずは受験回数と受験料の見直しです。なるべく学生の負担を減らし、私の希望としては、TOEIC S&Wも年に1回は無料で受験できるような環境を整えてあげたいと思っています。加えて、TOEIC Tests受験の必然性です。進級要件、卒業要件の導入の検討を強く提案していきたいと考えています。

ご清聴ありがとうございました。

TUFS Recordと ディプロマ・サプリメントにおける CEFR-Jに準拠した 言語力可視化の取り組み



東京外国語大学 大学院総合国際学研究院 教授、英語学習支援センター長 **吉富 朝子 氏**

■ 英語をはじめ、76言語が学べる大学

東京外国語大学では、2018年1月から「TUFS Record」の運用と「ディプロマ・サプリメント」の発行を始めました。本日は、この2つとともに、その中に盛り込んでいるCEFR-Jに準拠した言語力の可視化の取り組みについてお話しさせていただきます。先の2大学の発表の中にもCEFRが出てきましたが、本学で使っているのは、Jがついているもので、日本語が母語の学習者用のCEFRというものを独自に開発しています。

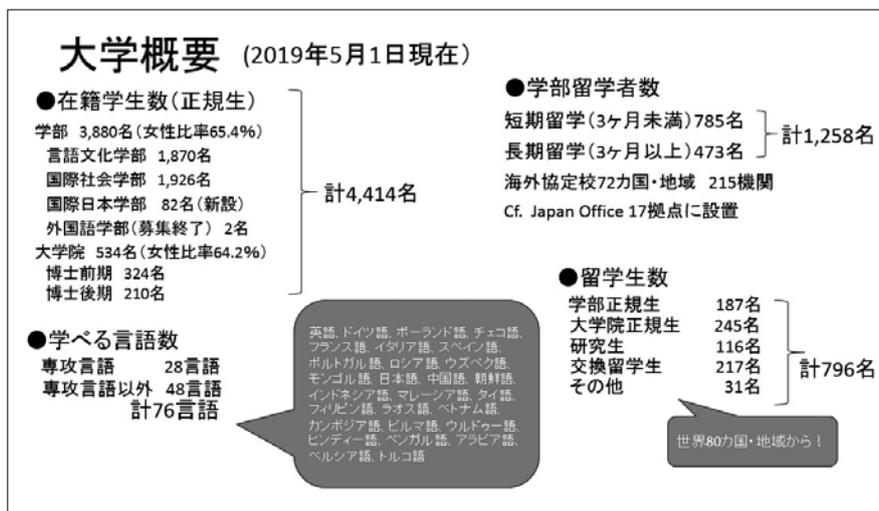
まずは、簡単に本学の概要をご紹介させていただきます(資料1)。本学は、学部学生数が4000人に満たない小さな大学ですが、学べる言語数は専攻言語が28言語、それ以外の言語をあわせると76言語に上り

ます。

在学中に留学する学生の数は、まだ目標値には至っていません。異文化に興味のある学生が多いので、積極的に海外に行きはするのですが、大学が認める派遣留学やショートビジットといったかたちで行っている学生は3分の1程度です。本学としては、留学率200%を目指していき、その意味は「1人2回行く」ということです。夏や冬の長期休暇を利用して短期のものを1回、そして長期のものを1回、それらを組み合わせて学生全員に2回留学させるのが大学としての目標です。

受け入れている留学生数については約800人で、学生の約5人に1人が留学生ということになります。世界80カ国・地域から来ているというのが特徴です。

(資料1)



■ 学修成果の可視化と質保証

本学は2016年度に大学教育再生加速プログラム (Acceleration Program for University Education Rebuilding : AP) に採択されました。このときのテーマは、(資料 2) にある通り、在学中に何を学んで、卒業時までにどのような専門的な知識、あるいは能力、言語技能などを獲得できたのか、それを見える化しようというものです。

(資料 2)

大学教育再生加速プログラム (AP) テーマV 「学修成果の可視化と質保証」 取組の概要

在学中に何を学び、卒業時にどのような知識・能力・技能を獲得できたか

- 1) ディプロマ・ポリシー: 言語力、専門力、行動・発信力
→ 達成度を示す客観的な指標を定める
- 2) 達成状況を学務情報システムと連動したeポートフォリオ
「TUFUS Record (たふれこ)」で可視化
- 3) たふれこを通して、学生が自らの学修を省察・評価・目標設定
- 4) たふれこの累積情報 → 就職活動時には「学修活動履歴書」、卒業時には「ディプロマ・サブリメント」として発行

本学はディプロマ・ポリシーにおいて、高度な言語運用能力、日本や世界諸地域についての知識・教養、現代社会を生きる力、専門的な知識、主体的に考え行動し発信する力といったことを掲げています。そこで、それらを3つのポイントに集約して、「言語力」「専門力」「行動・発信力」として達成度を示すということを試みることになりました。なるべく客観的な指標を定めて、外に見えるかたちにするということです。

学内には、履修登録や成績などを管理する学務情報システムがありますので、これに連動し達成状況を把握できるeポートフォリオを作りました。これが「TUFUS Record」、略して「たふれこ」というものです。このeポートフォリオを通じて、学生は常に自分が履修している科目のリストや成績のチェックができるのですが、同時に「たふれこ」に記載されている内容を確認したり、自分で少し書き加えたりすることができるようになっていきます。ですから、学生たちは、この「たふれこ」を通して自らの学修を振り返ったり、評価したり、次の

目標を立てることができます。「たふれこ」の情報は入学時からずっと累積されていきます。

そして、3年生が就職活動をする際には、「たふれこ」の累積情報の中から特に就職に役に立ちそうな情報をまとめて印刷した「学修活動履歴書」を学生に渡しています。また、卒業時には「ディプロマ・サブリメント」を発行しています。

■ 卒業証書には見えない学生の学び

なぜ学修成果の可視化が必要なのか、具体的に実感した例を挙げてご紹介したいと思います。

私自身は英語専攻所属の教員で、専門は第二言語習得という分野なのですが、数年前に卒業した私のゼミ生に中国語専攻の学生がいました。彼女は頑張って中国語を勉強し、卒業までにCEFRのC1という非常に高いレベルの中国語を身につけました。そして、彼女にとっては第二外国語になりますが、高校までやっていた英語も大学の間勉強を続け、TOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC® L&R) で900点台を獲得しました。

さらに今、本学では文理協働型の人材を育成するというので、理系が好きな学生に積極的に理数系科目を他大学で受講させて、それを本学の単位として認めるという取り組みを行っています。その1つが東京工業大学との2大学間プログラムで、本学で主に英語の授業を提供する代わりに、東京工業大学で理数系の授業を取らせていただくというものです。本学で提供している英語科目に関しては、理数系に必要とされるマニュアルの書き方、プレゼンテーションの仕方など、そういったことに重きを置いています。

この学生はこのプログラムの受講生でもあり、理数系の授業も東京工業大学でしっかり勉強して修了証をもらいました。3、4年生の時には私のゼミに所属し、英語の専門文献を読んで第二言語習得研究についての立派な卒業論文も書き上げました。

卒業後はソニーに就職し、当初の配属先は北京だった

そうです。その際には、専攻語である中国語と得意だった英語、そして母語である日本語を使って活躍していました。業務内容も、理数系の科目を通して学んだことが生かせるであろう、いろいろな製品の電池の開発を行っていたといいます。

これだけ素晴らしいことを在学中に取り組み、その後の就職につなげているにも関わらず、これまでの卒業証書に記載されていたのは「言語文化学部中国語専攻卒業」だけでした。もちろん成績証明書はありますが、履修した科目名が一覧で並んでいるだけで、しっかりと見なければ、なかなか何を勉強したかはわかりにくいものです。

そこで、大学として「たふれこ」のようなものをきちんと作ることで、学生の在学中の学修情報をわかりやすく発信する工夫をしようということになりました。

■ 「言語力」「専門力」「行動・発信力」に分けて情報管理

学生の力は、「言語力」「専門力」「行動・発信力」の3つの側面から測ります。また、この「たふれこ」では、大学の教務課が管理し、自動的に表示される情報と、学生自身が自分で管理・記入できる情報に分かれてい

ます(資料3)。

言語力については、英語を含む様々な言語を学生は専攻していますので、その言語の達成度、その他に教養外国語などの学修歴、そして、本学ではTOEIC L&Rを全員受験させているので、大学で受験したTOEIC L&Rスコアを大学が管理する情報として自動的に表示しています。

実は本学には、専攻言語と専攻言語が英語でない場合の英語、そして教養外国語、「世界のことば」というように、様々な言語科目の種類があり、たくさん取りたい人は自由に取ることができるようになっています。言葉好きな学生が多く、平均して3、4言語を学んでいますので、大学が管理する情報に含まれないプラスアルファの言語能力をアピールしたい場合は、自分で書き込むことになっています。

英語の外部検定試験についても、自動的に大学が入力するTOEIC L&Rスコア以外に、英検やIELTS、TOEFLなど様々な外部試験を学生たちは受けています。英語以外にも、英検に相当するフランス語検定や中国語検定などがありますので、もしそういったものを受験した場合には、結果を報告して「たふれこ」に記載できるようになっています。

なお、言語の4技能のうち「話す」は、発表と双方向のやり取りとに分かれており、両方を含めて4技能5領

(資料3)

TUFS Recordの情報			
	①自動的に表示される情報 (大学が管理する情報)	②自分で管理する情報	
		自分で入力	届け出る
言語力	<ul style="list-style-type: none"> ■英語と専攻言語の達成度 ■教養外国語などの学修歴 ■大学で受験したTOEIC L&R IPスコア 	<ul style="list-style-type: none"> ■「世界のことば」科目で受講した言語名 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分で受験した外部試験の結果は、英語学習支援センターへ
専門力	<ul style="list-style-type: none"> ■専門科目の履修歴 ■専門科目のGPA ■指導教員名 	<ul style="list-style-type: none"> ■研究テーマ・卒業論文題目 	
行動・発信力	<ul style="list-style-type: none"> ■大学のプログラムによる留学(ショートビジット、派遣留学、スタディツアーなど) ■大学の紹介で行ったインターンシップ ■大学の紹介で行ったボランティア活動 	<ul style="list-style-type: none"> ■休学留学、自由留学 ■自由応募によるインターンシップ ■個人参加によるボランティア活動 ■アルバイト経験 ■受賞、サークル・部活動、その他の特記事項 	<ul style="list-style-type: none"> ■大学が管理する情報に間違いがあった場合、教務課へ

域の五角形で言語力を示すようにしています。学生全員が受験する TOEIC® Program 団体特別受験制度 (IP: Institutional Program、以下 IP テスト) は、これまでは TOEIC L&Rのみでしたので、そのスコアだけでは「話す」「書く」の部分が埋まらないことになります。しかし実際は、多くの学生が自分で外部試験を受けに行きますので、それが4技能の試験の場合は「たふれこ」に反映されます。英語専攻の学生の場合は、主に英語の能力だけが表示されます。英語専攻以外の学生の場合は、英語に加えて自分の専攻言語の能力の評価も同様に表記されます(資料4)。

また、専門力については、自動で入力される専門科目の履修歴とGPA、指導教員名の他、自分で入れる情報として研究テーマや卒業論文の題目などがあります。

行動・発信力については、本学では短いものをショートビジット、交換留学のようなものを派遣留学と呼んでいます。そういった大学のプログラムによる留学や大学の紹介で行ったインターンシップ、ボランティア活動といった情報が自動的に入ります。本学の学生は大学が多くの派遣先を用意しているにも関わらず自分が

行きたいところは別のところという学生も結構いますので、そういう場合は休学留学、自由留学というカテゴリで、自分で申し込みをして行っています。この場合の留学は自分で入力します。自分で応募したインターンシップやボランティアの他、アルバイト、サークル活動などもどんどん記入してもらうようにしています。

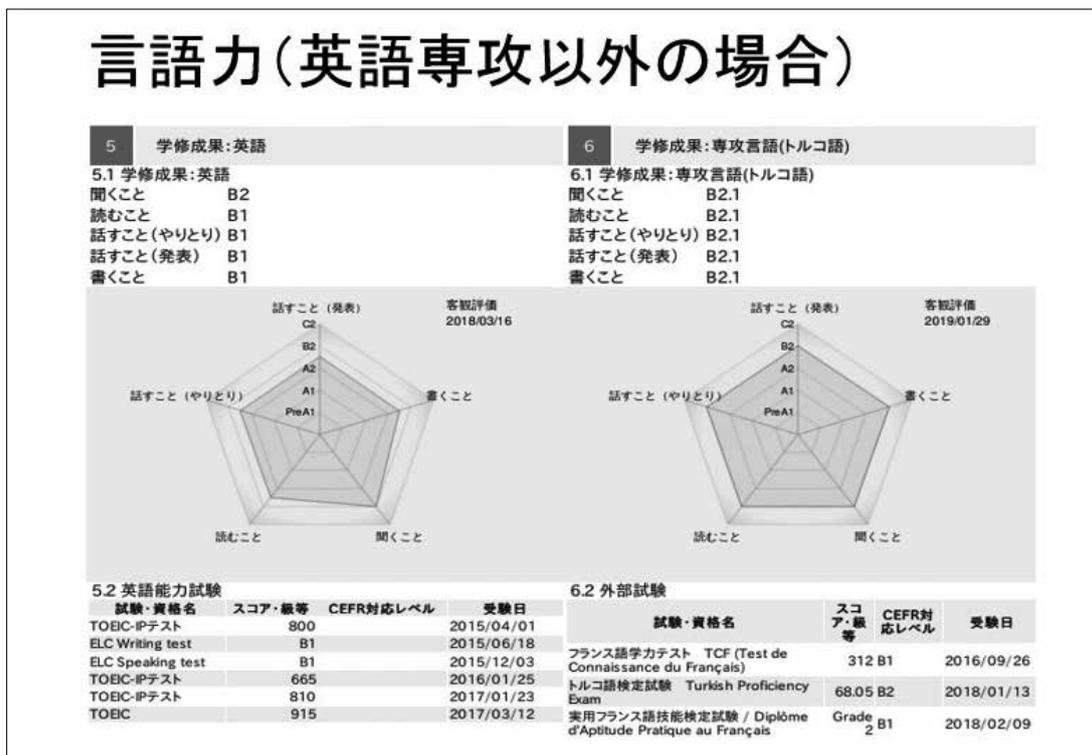
もし、自動的に表示される情報に対して、誤りなどがあった場合には教務課に申告することができます。

■ 学修活動履歴書と ディプロマ・サプリメント

先ほど、「たふれこ」には学生が自分で自主的に記入する部分があると話しましたが、留学やインターンシップ、ボランティア活動などに関しては、なるべくその活動を通じて気づいたこと、学んだこと、反省点や課題などを入力してもらい、それが最終的に学修活動履歴書に反映されるよう促しています(資料5)。

これらインターネット上の「たふれこ」のデータを刷り

(資料4)



出したものが、学修活動履歴書とディプロマ・サプリメントです。学修活動履歴書は、自分の学びの振り返りとして行う学修活動履歴から企業ニーズの高い項目を抽出してA4サイズ2枚にまとめたものになります。さらに、卒業時の質を公的に保証できるもののみを記載したものをディプロマ・サプリメントと呼び、卒業時に渡しています。ディプロマ・サプリメントに記載する内容は、国際的通用性を担保するため、EUがディプロマ・サプリメントの内容として規定している8つのセクションの情報をベースに、本学独自のセクションを加えて構成しています。卒業時に学生は皆、日本語と英語の両言語でディプロマ・サプリメントを受け取ります。

■ 大学教育再生加速プログラム (AP) 実施体制について

以上、ご紹介したものは、APの実施体制の中心である「学部 PODS 部会」と呼ばれる委員会が中心になって行っています。PODSというのは、ポートフォリオ&

ディプロマ・サプリメントの省略です。「多言語グローバル人材ディプロマ・サプリメント発行プロジェクト」というプログラムの実施母体として、本日中心にお話ししている英語を含めて全27言語で展開しています。また、この学部 PODS 部会には、言語力、専門力、行動・発信力の各サブ部会と、外部の有識者からなるTUFS 教育改革会議があります。

このうち、本日は言語力のサブ部会についてご紹介しますが、このサブ部会はもともと、スーパーグローバル大学創成支援事業の一部であった「CEFR-J×27プロジェクト」が基盤となっています。CEFRはご存知のように、ヨーロッパ言語共通参照枠、同じ基準で複数の異なる言語の能力を比較できるように開発された指標ですが、それを本学では、日本語が母語の外国語学習者が27の言語を学んだ場合のCEFR-Jのかたちにまとめようとしています。これは10ヵ年プロジェクトなのでまだ道半ばなのですが、最終的には、本学ブランドとしてのCEFR-Jによる統一的な教授と評価の可視化を目的としています。このプロジェクトでは、CEFRに準拠した言語材料を整備して、それぞれのレベルに合ったタス

(資料 5)

◆ 事実に関する情報(日付や活動名など)だけでなく、その活動を通じての、学びや気づき、反省点や課題などについても入力を奨励

行動力・発信力		開始	終了	単位
休学留学・自由留学 自主的に行った留学を記入してください。(5つまで)				
種別	大学・機関機関名			
オーストラリア	オーストラリア国立大学	2015/08	2015/09	
自主インターンシップ インターンシップ欄に記載されたもの以外にモメンタムインターンシップがある場合は記入してください。				
自由記述 2017/10/01~2017/10/03 〇〇自動車 (株)				
自主ボランティア ボランティア欄に記載されたもの以外にもボランティアがある場合は記入してください。				
自由記述 トルコ留学中に、難民支援活動を行うボランティア団体KASに参加し、援助物資の仕分け作業を行った。(2017.2~4)				
アルバイト経験 特に学ぶことのできたアルバイトの経験がある場合は記入してください。				
自由記述 日本料理店で、来店外国人観光客の接客を担当した。(2015.04~2016.02)				
受賞、サークル活動・部活動、その他特記事項 受賞歴、サークル・部活動、その他の特記すべき成果や成績・活動がある場合は記入してください。(複数項目可)				
自由記述 高校留学に出発するまでサッカー部に所属しレギュラーだった。				

例: 平和構築や安全保障、国際援助のありかたについて何か考えたことは?

例: どのような苦労・困難を経験し、どのように克服したか? 問題解決アプローチ、他者理解、コミュニケーション力、リーダーシップの観点などからの記述を!

(資料 6)

◆ CEFR-J基準 ※CEFRはA1からC2の6段階で評価。
 ・4技能5領域(読む、書く、聞く、発表、やりとり)に関して、基礎段階のPreA1から言語に熟達しているレベルのC2まで12段階のレベルで評価

レベル	PreA1	A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2	C1	C2
聞く	ゆっくりはっきりと話されれば、日常の身近な単語を聞きとることができる。	当人に向かって、ゆっくりはっきりと話されれば、「立て」「座れ」「止まれ」といった短い簡単な指示を理解することができる。	趣味やスポーツ、部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。	ゆっくりはっきりと放送されれば、公共の乗り物や駅や空港の短い簡潔なアナウンスを理解することができる。	スポーツ、料理などの一連の行動を、ゆっくりはっきりと指示されれば、指示通りに行動することができる。	外国の行事や習慣などに関する説明の概要を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	自然な速さの録音や放送(天気予報や空港のアナウンスなど)を聞いて、自分に関心のある、具体的な情報の大部分を聞き取ることができる。	自然な速さの標準的な英語で話されていけば、テレビ番組や映画の母語話者同士の会話の要点を理解できる。	非母語話者への配慮としての言語的な調整がなされていなくても、母語話者同士の多様な会話の流れ(テレビ、映画など)についていくことができる。	構成が明瞭ではなく、事柄の関係性が暗示されているだけで明示的になっていないときでも、長い話を理解できる。また、特別に努力しないでもテレビ番組や映画を理解することができる。	生であれ、放送されたものであれ、母語話者の速いスピードの発話でも、話し方の癖に慣れる時間の余裕があれば、どんな種類の話し言葉も難なく理解することができる。
	英語の文字が発音されるのを聞いて、どの文字かわかる。	日常生活に必要な重要な情報(数字、品物の値段、日付、曜日など)を、ゆっくりはっきりと話されれば、聞き取ることができる。	日常生活の身近なトピックについての話を、ゆっくりはっきりと話されれば、場所や時間等の具体的な情報を聞きとることができる。	(買い物や外食などで)簡単な用いたすの必要な指示や説明を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	学校の宿題、旅行の日程などの明確で具体的な事実を、はっきりと話しめのある発音で指示されれば、要点を理解することができる。	視覚補助のある作業(料理、工作など)の指示を、ゆっくりはっきりと話しめのある発音で指示されれば、聞いて理解することができる。	自分の周りや話されている少し長めの議論でも、はっきりと話しめのある発音であれば、発音を理解することができる。	はっきりとなじみのある発音で話されれば、身近なトピックの短いラジオニュースなどを聞いて、要点を理解することができる。	トピックが身近であれば、長い話や複雑な議論の流れを理解することができる。	自然な速さで標準的な発音の英語で話されていけば、複雑な議論の流れを理解することができ、話者の意図を理解することができる。		
理解	口頭活動で既に慣れ親しんだ絵本の中の単語を見つることができる。	「駐車禁止」「飲食禁止」等の日常生活で使われる非常に短い簡単な指示を読み、理解することができる。	簡単なポスターや招待状等の日常生活で使われる非常に個人的な興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた、スポーツ・音楽、旅行など個人的な興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの、説明文を理解することができる。	簡単な英語で表現された旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を採ることができる。	学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の要点を理解することができる。	インターネットや参考図書などを調べて、文章の構成を意図しながら、学業や仕事に関連する情報を手に入れることができる。必要であれば辞書を用いて、図表と関連づけることができる。	現代の問題など一般的な関心の高いトピックを扱った文章を、辞書を使わずに読み、複数の視点の相違点や共通点を比較しながら読むことができる。	記事やレポートなどのやや複雑な文章を一読し、文章の重要度を判断することができる。複雑な読みが必要と判断した場合は、読む速さや読みに基づいて、正確に読むことができる。	長い複雑な事実に基づくテキストや、文体的違いを認識しながら理解できる。自分の関連外の分野での専門的記事や長い技術的説明も理解できる。	抽象的で、構造的にも言語的にも複雑な文章。例えばマニュアル、専門的記事・文学作品のテキストなど、事実上あらゆる形式で書かれた英文を容易に読むことができる。
	ブロック体で書かれた大文字・小文字がわかる。	ファーストフード・レストランの、絵や写真がついたメニューを理解し、選ぶことができる。	身近な人からの携帯メールなどによる、旅の思い出などが書かれた非常に簡単な近況報告を理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた短い物語や伝記などを理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた短い物語や伝記などを理解することができる。	生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。	ゲームのやり方、申込書の記入しかた、もの組み立て方など、簡潔に書かれた手順を理解することができる。	平易な英語で書かれた長めの物語の筋を理解することができる。	難しい部分を読み返すことができれば、自分の専門分野の報告書・仕様書・操作マニュアルなどを、詳細に理解することができる。	自分の専門分野の論文や資料から、録音を使わずに、必要な情報や論点を聞き取ることができる。		

※CEFR-J基準に関する詳細は、本学AP事業サイトを参照されたい: <https://tufspods.net/>

く、さらにそのタスクに紐付けされたテストの開発に取り組んでいきます。

CEFRはA1からC2までの6段階の指標ですが、CEFR-Jは12段階になっています(資料6)。これは、日本人の外国語学習者にはどうしても初級・中級の学習者が多いため、そこの記述をもう少し詳しくしようという狙いからです。プリA1というA1よりもさらに初歩のレベルから設定しています。なお、CEFR-JもCEFRに則って、その言語を使って何ができるかということを基準として能力を記述しています。

■ 学生や教員、企業からの声

APが2016年度に採択され、2018年1月から全3年生を対象に「たふれこ」の運用を始めました。ですから、今年3月に卒業した学生が、卒業時にディプロマ・サプリメントをもらって卒業した初代の学年になります。言語力判定の実績に関しては、全27専攻で95.4%となり、当初目標としていた75%を大きく上回ることができました。

卒業生にアンケートを実施して声を拾ったところ、「ディプロマ・サプリメントが自分の学修成果を網羅したものになっていると思うか」「卒業時の学修成果として自身が納得いくものか」などの項目において、肯定的な回答を多く得ました。また、学修活動履歴書については、「大学生活をアピールできる」「振り返りの習慣を作るのに役立つ」という肯定的な意見があった一方で、「自分の強みを外部向けにどう分かりやすく説明するかが難しい」「就職活動時に特に提出書類に挙げられていないので、同封のタイミングが分からない」といった意見もありました。

教員からは、「たふれこ」のおかげで自分の指導している学生がそれまで何を勉強してきたのか、成績や留学等の実績などが多様に見られて非常に参考になる情報を得ることができたと好評でした。

また、企業にもディプロマ・サプリメントの効果に関するアンケート調査を実施しました。その際に、例えば「取得した資格や卒業して得られる資格などの記載があると良い」「留学やボランティアなどの中身について、具体的な記述がほしい」といったご指摘がありましたので、現

(資料 7)

英語学習支援センター(English Learning Center)



在の学修活動履歴書には資格などの情報が加わり、「たふれこ」の自由記述欄も増やしました。

■ 学内の英語教育について

本学では、英語専攻に限らず、全学的に英語に力を入れたグローバル人材育成プログラムを展開しています。語学としての英語科目と、英語による講義科目があります。語学のほうは、1年生はインターラクティブ・イングリッシュという、英語をたくさん使いましょう、大学レベルの英語に慣れましょうという目的の科目があります。2年生以降はアカデミック・イングリッシュ、専門的な内容を英語で学ぶ英語のスキルを磨くという目的で、例えばスピーキングやライティングのスキルに重きを置いた科目があります。3、4年生になりますとキャリア・イングリッシュ、いわゆるビジネス・イングリッシュですね、会社に入ったときに使えるような英語、プレゼンのための英語やEメールの書き方などを訓練する授業を展開しています。夏や冬には、インテンシブ・イングリッシュという集中英語科目や、期間中は英語しか使えないというイマージョン合宿なども行っています。英語による講

義科目に関しても、導入レベルのものから専門的なものまで幅広く取り揃えています(2019年5月現在 128科目)。

また、学内には英語学習支援センター(通称、ELC)があり、ここでは英語科目を支える自律学習支援を行っています(資料7)。目玉となるのが、スピーキングセッションです。ネイティブスピーカーの英語アドバイザーと学生が最大5人の少人数で話すというもので、毎日朝から夕方までセッションを開いています。先ほどご説明した、各学年の英語科目に連動した内容のセッションもあります。

その他にも、留学生と話をするフリーセッションや英語でのレポートやエッセイの書き方のアドバイス、TOEIC Programをはじめとする各種英語試験のための講習、e-Learningプログラムの提供も行っています。

■ TOEIC® Program の実施と英語力向上のための支援

TOEIC Program についてはこれまで、入学時、2年生4月、3年生4月と、年に1度 TOEIC L&R IP テストのみを全員受験させてきました。しかし、2019年

からは学年末に1年生全員が TOEIC® Speaking & Writing Tests(以下、TOEIC® S&W)を受験することになりました(資料 8)。

(資料 8)

英語力測定

	TOEIC Listening & Reading Test →入学時、2年4月、3年4月に実施	全員受験 受験料は 入学時に 徴収
	TOEIC Speaking & Writing Tests →1年学年末に実施	

これまでの受験者のデータを見てみますと、入学時の全専攻語をあわせた、TOEIC L&R の平均スコアは 700～750点です。TOEIC S&W についてはこれまで希望者のみとしていましたので、受験者は毎回100人くらいでした。スピーキングはどうしてもB1の上あたりでB2になかなか届かない、一方のライティングはB2あたりという状況です。本年度から1年生が全員受験しますので、より網羅的な評価ができるようになります。

英語力向上のための支援としては、「TOEIC L&R 対策講習」があります。これは授業ではないので単位にはなりません、無料ということもあり、結構多くの学生が参加しています。参加者からの反応も良く、直近のテストで約50点スコアが上がることも少なくないようです。

「TOEIC 直前勉強会」というものもあります。これは、特に勉強の仕方が分からないといった TOEIC L&R スコア400～600点程度の学生を対象に行っているものです。

その他にも、TOEIC S&W に対応したスピーキングセッションや、CEFR のレベルに基づくタスクに対応したスピーキングセッションもあります。スピーキングセッションでは、ただ話して終わりではなく、最後に振り返りの機会を設けてエッセーを提出させています。

■ TOEIC® Program のスコアの活用について

最後に TOEIC Program のスコアの活用について説明させていただきます(資料 9)。

(資料 9)

TOEIC-IPスコアの活用

- GLIP英語科目クラス分け
- 英語学習支援センターの自律学習課題
- たふれこ

英語能力評価指標のひとつ e-learningによる「英単語学習」
(アルク社 PowerWords)
→自分のTOEIC-IPスコアに対応する
レベル以上のユニットに取り組み

言語ボランティア採用基準

TOEIC スコア	～545	550～780	785～870	875～
PowerWords 対象レベル	レベル4以上	レベル5以上	レベル6以上	レベル7以上

本学では、TOEIC Program のスコアを英語科目のクラス分けや英語学習支援センターが提供する e-Learning 課題の目安、そして最初にご紹介した「たふれこ」の中の英語能力評価指標の1つとしてなど、様々な場面で使わせていただいています。

また、言語ボランティアというものもあります。例えば、2016年に行われたリオ・オリンピックのボランティア募集の際には、TOEIC L&R 800点以上という条件で公募をしたところ、約30人の応募がありました。その他にも、TOEIC L&R 650点以上、TOEIC Speaking Test 130点以上を条件として、台湾で開催された4大陸フィギュアスケート選手権大会やバスケットボールの B.LEAGUE U15 チャレンジカップにも学生を派遣しました。学生は通訳ボランティアとして活躍しました。

以上、「たふれこ」と CEFR-J に基づく言語力の可視化及び英語力強化に向けた取り組み、そして TOEIC Program の活用についてお話しさせていただきました。

ご清聴ありがとうございました。

発行月：2019年 10月

発 行：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC)

東京

〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-14-2 山王グランドビル
TEL (03) 5521-5012 FAX (03) 3581-5512

名古屋

〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦 2-4-3 錦パークビル
TEL (052) 220-0282

大阪

〒541-0059 大阪府大阪市中央区博労町 3-6-1 御堂筋エスジービル
TEL (06) 6258-0222

公式サイト

<https://www.iibc-global.org>

ETS, the ETS logo, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of Educational Testing Service, Princeton, New Jersey, U.S.A., and used in Japan under license.

IIBC 世界は、あなたでつながる。

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
The Institute for International Business Communication